

第4回江別市行政審議会 会議録（要点筆記）

日 時：平成30年2月20日（火） 18:30～20:20

場 所：江別市民会館 37号室

出席委員：押谷一会長、田口智子副会長、碓井和弘委員、奥村昌子委員、
安孫子建雄委員、岸本佳廣委員、田原久美子委員、成田裕之委員、
西脇崇晃委員、萩原英樹委員、深瀬禎一委員、豊田選子委員、
中井和夫委員、三ツ井瑞恵委員、山崎啓太郎委員（計15名）

欠席委員：山崎雅江委員（計1名）

事務局：北川企画政策部長、福島企画政策部次長
政策推進課中島参事、天明屋主査、山口主事

傍聴者：0名

■開会

○押谷会長

第2回、第3回の行政審議会は、部会に分かれてまちづくり政策ヒアリングを行いました。本日は、各部会からヒアリング結果の報告をさせていただき、次期えべつ未来戦略についてご審議していきたいと思います。

なお、各部会からヒアリングを行った際に要求がありました資料については、机上に配付されていますので、事務局から説明願います。

【事務局から「野幌駅周辺土地区画整理事業パンフレット」、「江別の顔づくり事業パンフレット」、「清掃事業概要」、「通級指導教室について」の概要説明】

■議事

■まちづくり政策ヒアリング結果の報告について

・資料1-1 行政審議会政策別ヒアリング結果【第1部会】

○押谷会長

第1部会では、昨年12月28日と1月12日に担当部局から5つの政策、13の取組の基本方針に係る、計画策定時からの取組、取組に対する評価・課題、見直しの有無についての報告を受け、それについての議論を行いました。

まず1ページ政策02産業においては、取組の基本方針2「商工業の振興」展開項目「(6)就業環境の充実」では、委員から「計画策定時は雇用機会の確保が課題であったが、現在は人材不足へ雇用環境が変わっているため、就業機会の確保から人材の確保を支援するという記載内容に変更すべきではないか」との意見があり、「人材確保」について記載内容を変更することを提案しております。

次に、2ページ政策04安全・安心では、取組の基本方針1「安全な暮らしの確保」の展

開項目「(4)生活衛生環境の充実」では、空家等がもたらす防災、衛生、景観など住環境悪化といった課題へ対応するため、「空家等の発生抑制及び危険空家への対応等により、安全で安心な生活環境の確保に努める。」といった内容の記載を追加したいとのことであります。江別市では空家等対策協議会があり、その中で協議されている内容であります。

また、取組の基本方針3「消防・救急の充実」の展開項目「(2)救急体制の充実」「(3)火災予防対策の推進」では、救急需要の増加や地域防火・防災力の向上といった課題に対応するため、救急隊の効率的な運用や民間防火組織の育成強化について記載内容を追加していくとのことであります。

次に、3ページ政策05都市基盤では、取組の基本方針1「市街地整備の推進」展開項目「(4)計画的な土地利用の推進」では、委員から「江別市は駅を中心としてコンパクトなまちづくりを進めているが、総合計画本体にはコンパクトなまちづくりについての記載がないのではないか」との意見があり、「江別版コンパクトなまちづくり」を記載内容に加えることを提案しております。

取組の基本方針2「交通環境の充実」展開項目「(3)公共交通の最適化」では、市民の交通利便性とバス事業者の採算性のバランスを図りながら、公共交通を維持するといった後期に向けた課題に対応するため、「駅を中心とする交通網を基本とし、地域の実情に即した持続可能な公共交通の形成を推進する」といった内容に変更したいということでありました。

最後に、政策09計画推進では、取組の基本方針2「透明性と情報発信力の高い市政の推進」展開項目「(2)広報の充実」について、委員から「えべつ未来戦略でシティプロモートに重点的集中的に取り組んできているが、総合計画本体の中にシティプロモートについての位置付けがないため、シティプロモートの取組を追記してはどうか」との意見があり、シティプロモートの取組について追加することを提案しております。

以上、第1部会が行ったヒアリングの中では、計画の構想にまで及ぶ大きな見直し意見はありませんでした。

なお、それぞれ所管で管理している個別計画や具体的な取組に対する意見につきましては個別計画等に対する提言要望という形でまとめておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

・資料1-2 行政審議会政策別ヒアリング結果【第2部会】

○田口副会長

第2部会所管の政策別ヒアリング調査につきまして、資料1-2に基づき、報告します。

第2部会では、昨年12月27日と1月9日に、担当部局から4政策12の取組の基本方針に係る、計画策定時からの取組、取組に対する評価課題、見直しの有無について報告を受け、議論を行いました。

初めに、1ページ政策03福祉・保健・医療では、取組の基本方針4「高齢者福祉サービスの充実」で、介護保険法の改正等により、展開項目「(2)介護予防と自立生活の支援」に、「高齢者の健康維持・増進のため、介護予防に取り組むとともに地域での支え合い体制

づくりを進める」といった内容を加えるほか、展開項目「(3) 在宅福祉の充実」に、住まい・医療・介護・予防・生活支援の一体的な提供を目指すことを加えるとのことでありました。

また、取組の基本方針5「安定した社会保障制度運営の推進」の展開項目「(1) 生活困窮者への支援」に関しまして、「生活困窮者自立支援法の制定を受け、生活保護に至る前の生活困窮者を対象に、自立相談支援を進める」といった内容を加えるとのことでありましたが、一部表現を修正してもらいました。

次に、2ページ目の政策06子育て・教育では、児童福祉法及び母子保健法の改正などによりまして、取組の基本方針1「地域子育て環境の充実」の展開項目「(1) 母子保健の充実」及び「(2) 地域子育て支援の充実」では、「妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を提供する体制を整える」といった内容を加えることとなります。「(2) 地域子育て支援の充実」については、委員から「食育についての情報提供や相談ニーズが高まっているので、それらにも対応できるような記載が必要」との提案がありました。

また、展開項目「(3) 未就学期児童への支援」には、子どもの一時預かり事業拡大などといった後期の課題に対応するため、「多様な保育ニーズに対応する」という表現を追加しております。

さらに、展開項目「(4) 学齢期児童への支援」に、就学後の放課後児童の預かりニーズが高まっていることを受け、「児童が放課後を安心、安全に過ごすことができ、保護者が就業と子育てを両立できる放課後対策の推進に努める」といった内容を新たに加えるとのことでした。

そして、展開項目「(5) 療育支援の充実」に、発達障害者支援法の改正などにより、「関係機関との連携体制の充実を図る」「発達に関する不安を軽減し、早い時期から療育が受けられる体制の充実を進める」といった内容を加えるとのことでした。

次に、3ページ政策07生涯学習・文化では、取組の基本方針3「市民スポーツ活動の充実」の展開項目「(1) スポーツレクリエーション機会の充実」に、スポーツ合宿誘致への取組という後期の課題に対応するため、「スポーツ合宿誘致に取り組み、合宿参加選手との交流を通して、市民スポーツの推進を図る」といった内容を加えるとのことでした。

最後に、政策08協働では、取組の基本方針1「協働のまちづくりの推進」の展開項目「(2) 市政への市民参加の拡大」に、市民参加条例が制定されたことから「市民参加条例に基づき市民参加の拡大を図るといった表現を追加するとのことでした。

第2部会で実施しましたヒアリングの中では、計画の構想にまで及ぶ大きな見直し意見はありませんでした。

なお、それぞれ所管で管理している個別計画や具体的な取組に対する意見につきましては、右側の欄の個別計画等に対する提言要望という形でまとめておりますので、後ほどご覧いただきたいと思っております。

【質疑】

○押谷会長

まず、第1部会について、いくつか気になる点があります。

1点目、政策01自然・環境についての提言要望ですが、循環型社会の形成において、パブリックコメントを実施したため、目にしているかもしれませんが、環境クリーンセンターは施設の延命化という方向でまとまっています。江別市は、分別回収などを積極的に行っていますが、生ごみが大きな問題だと思えます。生ごみの分別、リサイクルについて検討されるべきだと思っております。

2点目、政策02産業の都市型農業の推進で、農業は北海道の産業の中で重要な位置づけとなっており、江別市でも大きなウエイトを占めていますが、温暖化の問題が非常に深刻になってきています。

北海道は開拓当時には稲作が出来ませんでした。温暖化が進み稲作も可能になりました。今後も温暖化が進むと野付半島まで稲作が出来るとは思いますが、一方で、夏の降水量が増加し、江別市の特産である小麦に影響が出てしまうため、気候変動に対する農業対策を進めていただくことも必要だと思えます。

3点目、同じく政策02産業において、雇用機関の確保、就業機会、人材の確保について、江別市も高齢化社会をむかえていることから、若者だけではなく高齢者の雇用促進、高齢者や退職者の起業支援についても検討していく必要があると思えます。

次に、第2部会についての意見ですが、1点目、政策08協働の中で、先日、田口副会長とともに市長の話聞く機会があり、協働をより推進していきたいという話がありました。

協働は、共に働くということですが、市民、行政、産業界など多様な主体が関わっています。行政の中でも多様な部署が関わってくるため、総合調整が上手くいかないように思います。計画自体を修正するわけではありませんが、協働のまちづくりを推進する中で、行政だけではなく、大学、産業界、金融機関などの総合調整が出来るとは何かを形成することは出来ないのでしょうか。

2点目、同じく政策08協働の国際交流の推進についてですが、今月初めにフィジーの名誉領事館が江別市に開設されました。現在、江別市はグresham市と友好都市を結んでいますが、名誉領事館が出来たこともあり、今後、フィジーをはじめとする国際交流が観光開発を含めて出てくると思うので、国際交流を進めていただきたいと思えます。

以前、市長の話にもありましたが、4大学、1短期大学の大学生が江別市の人口の約1割を占めており、その中の数%が留学生です。多くは東南アジア、中国の方ですが、今後も留学生が増えてくると思えますので、そのような方々と一緒にまちづくりの仕組みをつくることを検討していく必要があると思えます。

○田口副会長

押谷会長から第2部会でヒアリングを行った政策08協働についての話がありましたが、協働は素晴らしい考えだと思えます。労働雇用の話が出ましたが、試験的な構想を考えており、いずれ江別市などでも提案して、形作っていきたくて思っております。

京都府での協働は、コンソーシアム、京都市、京都府、各大学と様々な機関がこういった構想試験的な仕組みづくりのプラットフォームを作っています。江別市は京都市で言うと右京区ほどの規模のため、各団体が共興して行っていますが、そのような取組やドイツの取組を見ると、江別市の組織は適当な規模だと思います。そうした中で、多様な人たちがどのように関わることが出来るかという、産学官金連携という形で実行可能性が出てくるように感じています。単なる形だけではなく、機能化させることが本当の協働だと思います。機能化させるのは、産学官金のそれぞれの特性を生かした形で作ることにより、実効性が高められると思います。

江別市では、様々な団体が活発に活動をされていますが、機能的な部分、目的で結ばれていかなければ、実効性を高めることが出来ないと思います。成熟期に入ろうとしている各団体の活動を産学官金の機能を持つ仕組みづくりをすることが、押谷会長の考えに匹敵するものであり、答申意見として付記していただきたいと思います。

最後に、フィジーの領事館の件ですが、様々な交流がありますので、人のネットワークによる国際交流、異文化交流が単なる留学や就業だけではなく、違う形で発展していく可能性もあるため、答申意見として記載していただきたいと思います。

○奥村委員

第1部会で検討された政策09計画推進の男女共同参画による市政運営の推進の提言として、LGBTへの対応が議論されたということに強く賛同します。

今年度、北海道情報大学にLGBT当事者、当事者を知りたいと思う学生が集まり、サークルが出来ましたが、大学生にとって自身がLGBTであることは、就職にもつながる大きな課題です。LGBTに対して寛容な企業でなければ、なかなか就職できないなどの悩みが大きなものとなっています。

このような動きは北海道情報大学だけではなく、昨年札幌市で復活したレインボーマーチの活動も学生が中心となっています。学生の中からそのような動きがありますので、市としても企業としても賛同していただきたいと思います。

次に、政策05都市基盤の計画的な土地利用の推進の計画見直し素案に対する修正案にある「コンパクトなまちづくり」という文言は、どのような議論から出されたのでしょうか。総合計画自体にはその文言は出ていませんでしたが、江別市の印象を大きく左右する文言だと思います。

○押谷会長

LGBTは、社会全体が大きくそのような方向に移っていることもあり、加えさせていただいており、社会の中でも積極的に取り組まなければならないと思っております。

コンパクトシティは行政コストの関係、除排雪の問題も含めて、人口減少、高齢化の中で進めていくことだと思います。

駅を中心としたまちづくりからコンパクトシティという概念が強調されていると思いますが、事務局から補足等がありますか。

○事務局

第1部会の議論の中で、江別版コンパクトなまちづくりというものが、えべつ未来戦略には記載されていますが、計画本体の方には記載がありません。江別版コンパクトなまちづくりについて明記していただきたいという意見が出たため、このような記載となりました。

○押谷会長

コンパクトシティなどの言葉については、市民に周知する際に分かりやすい説明を加えていただきたいと思います。

○中井委員

江別市のごみの分別については、周辺の市町村に比べて遅れています。例として、札幌市は雑紙や容器プラスチックは資源として分別しており、市町村によっては生ごみも資源として活用しています。江別市でも資源化の推進について検討していただきたいと思います。

政策02産業の商工業の振興の中で、総合特区の推進について、どのように位置づけるかを議論していただきました。江別市の商工業の振興では重要な位置づけになるので、このような意見があったと提言要望に入れていただきたいと思います。

また、第1部会の政策05都市基盤について、先ほどコンパクトなまちづくりという点で話がありましたが、公共施設の計画的な整備、延命化も話題となっています。都市基盤の整備全体でも、これまでも計画的な整備は行われてきていましたが、延命化は新しい視点となっています。

江別市でも、公共施設等総合管理計画を策定しており、直接延命化という文言はありませんが、効率的な管理などに延命化という新しい視点の考えが加えられています。この部分では、道路のみ延命化を行っていますが、公共施設の延命化は道路だけではなく、水道、ごみ処理場など他の事業でも必要だと思いますので、各委員にもご理解いただきたいと思います。

○押谷会長

延命化や長寿命化は財政的な問題なども出てきますが、えべつ未来戦略で議論した方がよいと思いますので、全体像を見渡した中で延命化、長寿命化が市民にとってメリットがあるならば、そちらで議論させていただきたいと思います。

○三ツ井委員

政策02産業の観光による産業の振興で、これからの観光振興はスマートフォンによる情報発信という提言要望があり、政策07生涯学習・文化の生涯学習の充実でもスマートフォンを使用する高齢者も多いと提言要望が記載されています。このことから第1部会、第2部会両方でネットによる情報発信についての話題が出たと察します。今後、それらを政策09計画の推進のシティプロモートがまとめ、人と情報のネットワークのプラットフォームを作っていく必要があるのではないかと考えます。

シティプロモートの提言要望に、広聴について直接出向いて市民の意見を聞くことが有意義であるとありますが、どのような議論から出た意見なのか聞きたいと思います。

○安孫子委員

広報広聴の中での情報の伝達方法は日々進歩しているため、様々な手法があると思います

が、市民の現場を直接回ることにはあるかということが気になりました。極力現地に行き、市民の顔を見て話を聞くということは、行政には重要だと思います。そうしなければ、言葉だけが先行し、実際の市民生活がどのような状況か分からないということも考えられます。

○押谷会長

行政が広報広聴の中で、市民の中にもっと入っていくということだと思います。これまでも積極的に行っていましたが、さらに市民生活に踏み込んでいただきたいと思います。

○安孫子委員

コンパクトシティという言葉は10年以上前から出ておりますが、全国的に見ても成功したという事例は限られています。市の構想図は地域によって異なると思いますが、江別市ではどのような姿がコンパクトなまちとして考えられるでしょうか。

この計画や都市計画にも関連しますが、江別市もコンパクトなまちづくりにするということは教育やごみなどすべてに関係してきます。コンパクトなまちづくりを進めていくこと自体は悪い事ではないのですが、簡単な話ではないものを計画に載せて良いのかとも思います。実行するならば、市民も巻き込んで行っていく必要があるのではないのでしょうか。

○押谷会長

実態が伴わない、絵に描いた餅にならないような計画が必要だと思います。

コンパクトシティについては様々な意見があり、ようやく成功しそうなのは夕張市ですが、強引な政策推進をしなければ、出来ないところもあります。

江別市は江別、野幌、大麻という都心部と八幡などの農業地帯があり、複雑に入り組んでいるため、コンパクトシティといっても難しい部分がありますが、様々な効率化も考えていかなければならないので、安孫子委員の懸念されている部分は承知していますが、まちづくり政策にコンパクトシティの概念を入れて、了解いただく方向でよろしいのではないのでしょうか。現在、社会増で転入世帯が増加していますが、今後は人口減少が避けられないため、まちの都市計画、マスタープランを含めて相当な調整が必要になります。

今回の総合計画の中間改訂では、先送りするという意味ではないので、積極的に進むことではありませんが、検討する課題としたいと思います。

これは大きな課題なので、個別具体的な計画は都市計画審議会等で検討していただきたいと思います。

○中井委員

政策03福祉・保健・医療の高齢者福祉の充実、政策08協働の協働のまちづくりの推進について、当事者の意見が反映されていないのではないのでしょうか。

1点目、高齢者福祉の充実についてですが、介護は際限なく拡大しており、実態として訪問介護は1人が1か月に150回利用しています。そうした中で、さらに際限なく拡大していくというのは良いのでしょうか。記載している内容は良いと思いますが、現実を踏まえた議論が必要ではないのでしょうか。また、そのようなことが介護保険料の基準額の引き上げにつながっており、平成30年は発足当時の2倍の保険料になります。適正な人口増、長期的に持続可能な運用を考えなければならないと思います。江別市だけで出来ることは難しいと

と思いますが、そのような視点もあることを踏まえて議論していただきたいと思います。

2点目、政策08協働の協働のまちづくりの推進について、今回、市民参加条例に基づく参加拡大と記載されていますが、拡大だけではなく質の問題だとも考えています。

市民参加条例が策定されてから、市民参加の委員の人数が減少しているということがあります。公募の市民参加に対しての制約が大きくなりました。市民参加条例の施行規則で兼職は3つまでとされていますが、例外規定ということで、学識経験者や有識者等についてはその制限が事実上ありません。なぜ公募の委員だけの制約なのか疑問があります。学識経験者や有識者等は最大7つも掛け持ちしている現状です。そのような実態から単純に参加の拡大だけで良いのか疑問があります。

○押谷会長

高齢者福祉の問題については、費用面などを含めた政策的な側面が大きいので、江別市独自で出来ることは記載がある健康維持などだと思いますので、記載方法については、工夫した形を検討していただきたいと思います。

市民参加条例について、今回の行政審議会では中井委員を含む4名が公募委員として参加しております。個人の意見としては、江別市は人口12万人の市ですので、公募委員として全員公平に参加することを考えると1人3件は多く、1人が1件の審議会に参加するべきだと考えており、公平に機会を与えられる方が適正だと思います。しかし、専門や関心のある分野などもありますので、3件ほどに参加することがあるかもしれません。市民の方々が公平にという意味では広く参加できる仕組みではないかと思います。定数が若干削減された部分はありますが、市の場合は審議会、協議会にて公募委員がおり、審議された内容もホームページ等でも閲覧できます。また、パブリックコメントも求めていますので、体制が整っていると思います。

前回、総合計画を策定する際には市民会議を行い、市民公募の方も大勢参加されました。今回は中間改訂のため市民会議は開かれておりませんが、今後検討する必要があると思います。

○田口副会長

パブリックコメントを行っていても参加率を見ると、今まで以上に周知する必要があると思います。市民参加に関しても様々な手法があるということは何らかの形で市民全体に周知できるようなことがあると良いと思います。

○押谷会長

このような審議会は発言者の名前も含めて公表されますので、責任をもった発言も必要であると感じます。

○中井委員

たしかにパブリックコメントは参加者が少ないという意見はあると思いますが、実際に参加すると、納得しがたい回答も多くあります。具体的な例として、来年度の予算編成についてのパブリックコメントでは、直接の事業は一握りで、その事業に対する回答以外、市の方針の回答はありませんでした。また、市立病院の運営に対するパブリックコメントでは、ど

こに市民の意見を反映しているかを公表していません。そのため、パブリックコメントの参加率の向上は簡単には見込めず、実際の審議会の場で意見を述べる必要が出てきます。

○押谷会長

基本的にパブリックコメントを出されたものについては、受け取った関係部署の中で精査されたうえで回答されていることと思います。その内容に不服であれば不服の審査請求が出来るため、そのような手続きをしていただきたいと思います。

これは協働のプラットフォームの意味も含まれておりますので、市民自身が参加することが必要だと思えます。

■次期えべつ未来戦略について

【事務局から次期えべつ未来戦略について説明】

- ・資料2 えべつ未来づくりビジョンえべつ未来戦略概要
- ・資料3 えべつ未来市民会議提言書（抜粋）

【質疑】

○押谷会長

事務局から説明がありましたように、えべつ未来戦略、江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略があり、それを統合させながら、えべつ未来づくりビジョン、えべつ未来戦略を策定していきます。

○中井委員

えべつ未来戦略は意外と知られていないということがあります。どのような素案が提示されるか注目しております。

○押谷会長

広く周知する工夫は必要だと思えます。

次回の審議会は3月下旬を予定しておりますが、事務局から資料を提示していただき、それに対する意見をいただくということでよろしいでしょうか。

○事務局

本日の審議会でどのような分野を次の未来戦略として掲げたら良いかという意見をいただき、それを基に事務局で骨子案を作成し、次回示したいと思います。

○安孫子委員

戦略を作成する段階で、現計画と次回計画の背景がどのように変化しているかという現状認識をしなければならないと思えます。雇用や人材確保等、時代の変化を見なければならぬと思えますので、分析する機会があっても良いのではないのでしょうか。

○事務局

事務局として第1回行政審議会では江別市の現状や統計的な情報を説明させていただいており、各部会に分かれ2回ずつヒアリングを行ったので、その議論を通じて今後江別市として重要だと思う分野についても本日議論していただければ有り難いと思えます。

○押谷会長

当初の予定では、そのような進行であったと思います。しかし、本日配付された資料を各委員で改めて見直し、考えをまとめる時間が必要だと思います。

この行政審議会での審議の内容を議会に報告する時期はいつ頃を予定しているのでしょうか。

○事務局

平成30年9月の報告を検討していますが、5月頃にパブリックコメントを実施予定です。

○押谷会長

年度末、年度初めになるのでご多忙だと思いますが、3月下旬、4月上旬と開催することは出来ないでしょうか。

○事務局

3月下旬、4月上旬の間を空けないで行うことは出来るかと思いますので、日程調整をしたいと思います。

○押谷会長

大変お忙しい時期ではありますが、委員の皆様には日程を調整していただき、出席いただければと思います。

○岸本委員

本日配付された資料2下の図で、次期えべつ未来戦略について今後5年間の集中的・重点的に推進する政策分野を選定と記載がありますが、分野だけを選定するのか、もう一步踏み込んだ具体的なことまで考えて意見を出すのか、単純に上の図のように協働、子育てなどに絞った議論で良いのかをお聞きしたいと思います。

○事務局

各委員から、産業分野・子育て分野等の大きなくくりで重要と考える分野についての意見を聴取したいと思います。

○押谷会長

3月下旬に行う行政審議会では、各委員が選定した項目について議論し、4月上旬の行政審議会では素案が提示されるということだと思います。

○中井委員

先日の新聞記事に行政評価外部評価委員会がえべつ未来戦略構成事業について評価した報告書を市長に手交したと記載されておりました。次回の審議会では、その結果を提示していただけないでしょうか。

○事務局

外部評価の結果については、すでにホームページ等で公表しておりますので、次回の審議会までに準備したいと思います。

○押谷会長

それでは、今後の進め方について事務局、田口副会長と相談したいと思います。

■次回の審議会について

■その他

■閉会